

宮地プロジェクト

- 紙漉きの技術の継承と文化的景観の形成を目指す -

プロジェクトリーダー

建築社会デザイン工学科特命客員教授 磯田節子

1. はじめに

400年の伝統がある八代宮地の紙漉きは鹿北地方と並んで熊本県では最も古い歴史を持つ。宮地の紙漉きは水無川と水無川から引かれた幾筋もの水路を使って行われてきた。江戸時代は熊本藩の保護を受け、高い紙漉きの技術を持ち全国的にもその名を知られた。明治の初め頃は100人も紙漉き職人が暮らし、御簾などの道具をつくる職人、それぞれの分業を専門とする職人など紙漉きに関する多様な人々が暮らした。しかし洋紙の普及に伴い昭和50年頃から生業としては宮田寛さん唯一人が伝統的な紙漉きを継承されている。紙漉きの歴史を伝える幾筋もの水路は暮らしに溶け込み美しい景観を維持している。宮地地区には2014年から学生と共に関わっている。本年度は宮地地区の方々、自然環境や地域づくりの専門家の参加していただき研究会を立ち上げた。この宮地地区がもつ誇り高い歴史と宮地手漉き和紙、それを支えてきた美しい水路の景観を地域の貴重な地域資源として地域の人々と共有し、次世代につないていくための活動である。

2. 活動内容

本年度は宮地地区をはじめ八代市民の方々に呼びかけ4回のまち歩きをおこない、かつての記憶や宮地の魅力を出し合った。これらを「宮地、紙漉きの里の紙漉きとくらしのマップ」にまとめた。八代市や熊本県の人々に宮地和紙を知って頂くためにこのマップと宮地和紙を紹介する「八代、宮地 手漉き和紙暮らしを彩る和紙のデザイン帳」を作成した。1年間の活動報告として3月26日、27日の2日間、展示、紙漉き体験、講演会を八代厚生会館で開催した。展示会には2日間で延べ220人の入場者があった。

*本年度は八代市がまだしもん応援事業、くまもと里モンプロジェクト推進事業（熊本県）、日本都市計画学会九州支部研究分科会補助事業の各補助を受けて活動した。

- 2015年9月15日（土）
《歩いてみよう？紙漉きの里》
案内？山崎撰（八代市文化振興課）
▷参加者約30人



- 2015年11月26日（土）於妙見町公民館
《宮地紙漉きの里散歩マップづくり（No.1）
まち歩きと散歩マップづくりワークショップ》
担当？熊本大学工学部田中尚人研究室
▷参加者14人



- 2015年8月22日（土）於宮地公民館
《和紙のはなし～意外と知らない宮地和紙のこと～》
おはなし？早瀬輝美氏（八代市立博物館学芸員）
宮地和紙の工作指導？磯田節子・森山学（熊本高専）
▷参加者約30人



八代宮地紙漉きの里を
次世代につなぐ研究会

2015年度

活動の記録

- 2015年6月24日（水）於妙見町公民館
《第4回未来の宮地・妙見町を考える意見交換会
（まち歩きと話し合い）》
▷参加者10人



- 2015年活動目標
八代宮地和紙を八代市や熊本県の方々に広く知っていただく

- 成果品
1. 宮地和紙のデザイン帳
2. 宮地和紙を使った新しいデザイン開発
3. 宮田寛さんの紙漉き工程のビデオ記録
4. 宮地、紙漉きの里の紙漉きとくらしマップ

- 2015年12月5日（土）
於宮地公民館
《暮らしの中の宮地和紙～
宮地和紙デザイン中間報告
と“お正月に使いたい和紙”
の工作～》
報告？崇城大学芸術学部
原田和典研究室
折形指導？森山学
（熊本高専）
▷参加者約30人



- 2016年1月16日（土）
於宮地公民館
《美里町フットバスと宮地散歩
マップづくり（No.2）
まち歩きと散歩マップづくり
ワークショップ》
おはなし？井澤るり子氏
（美里町フットバス協会運営委員長）
▷参加者約30人

2015年度報告会

- 2016年3月26日～27日 於八代市厚生会館
《宮地和紙の魅力に触れる～暮らしの中の宮地和紙をめざして～》

- ◎ 様々な宮地和紙・新しいデザイン等の展示
- ◎ オリジナル和紙八ガキづくり 指導？宮田寛氏
- ◎ 講演 1. 「暮らしの工芸 いいモノ ほしいモノ」 坂本尚文氏（熊本県伝統工芸館）
2. 「多彩な和紙の世界と八代の製紙業」 早瀬輝美氏（八代市立博物館）
3. 「宮地和紙を用いた新しいデザイン」 崇城大学芸術学部原田和典研究室
4. 「宮地の散歩道」 熊本大学工学部田中尚人研究室

